

## 【小特集 1 VR文化フォーラム 2003 in 神戸】

# VR文化フォーラム 2003 in 神戸

## 参加報告



### ◆文化フォーラム担当理事総括

#### 仁科エミ

メディア教育開発センター

2003年のVR文化フォーラムは、神戸ポートアイランドで開催された。神戸といえば忘れられないのが、1995年1月17日に起きた阪神淡路大震災である。今回は、その復興に取り組む(財)阪神・淡路産業復興推進機構、さらに神戸市が推進する「神戸医療産業都市」プロジェクトとVR学会との連携が、美術評論家・伊東順二先生のコーディネートで実現した。具体的には、神戸で進んでいる産業再生のためのデジタルコンテンツポート計画や、高度先端医療施設の集積について、VR学会との交流によって更なる活性化や新しい展開を模索しようというねらいである。その趣旨についての伊東順二先生のメッセージを引用させていただく。「未曾有の惨事だった阪神淡路大震災が起こってから8年が経過した。貴重な人命の損失と共に、被災地域の経済的打撃もまた計り知れないものがある。しかし、官、学、民間によって創設された(財)阪神・淡路産業復興推進機構を中心とした産業再生への取り組みはようやく一つの可能性を培り出しつつある。県内

に施設された1600Kmにおよぶ光ファイバー網を利用したデジタルコンテンツポート計画である。コンテンツのハブポートになろうとするこの事業の一つの核となるKOBEMEEティングにVR文化フォーラムを迎え、先端映像技術への指針をともに模索することは復興への明るい光となるにちがいない。

2日間に渡るフォーラムの初日には、神戸医療産業都市に関わる研究者や行政担当者を主な聴衆として、「VR映像と先端医療」と題するパネルディスカッションが行われた。2日目のシンポジウムは、専門学校生からアーティスト、技術者など立ち見が出るほどの聴衆を集めて、「映像のゲノム」と題して行われた。詳細は、「参加報告」をご一読たまわりたい。

なお、ゲストスピーカーとして米国から招待したピクサー・アニメーションスタジオのローレン・カーペンター氏の講演は、「ファインディング・ニモ」「トイ・ストーリー」などで知られる同社の歩みや経営戦略から最新未公開映像まで、貴重な情報と示唆に富むものだった。そこで急遽、「VR文化フォーラム in 神戸アンコール ローレン・カーペンター講演会」を東京大学で11月13日に開催した。わずかな告知期間しかなかったにもかかわらず、200名を超える若い聴衆が集まり、大盛況のうちに終了したこともあわせてご報告しておきたい。